

2017 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

濱 本 周 造 (名古屋市大)

このたび、Bostonで開催されましたAUA meetingに引き続いて、2017年度のJUA/AUA Exchange Programに参加させていただきましたので、報告させていただきます。私は5月12日から6月9日までの約3週間、京都大学の根来宏光先生とともに、DetroitにあるHenry Ford Hospitalで研修させていただく機会を得ました。

Detroitは、自動車会社GMの倒産の影響を受け、「治安の悪いアメリカの都市ランキング」で1位とされるほど危険な都市と言われていています。ダウンタウンに近づかなければそれほど危険はないということなのか、用意してもらったホテルは少し郊外にありました。治安に関しては危険を感じることはなかったのですが、公共交通機関がなく、病院だけでなく、買い物や食事までもが、ホテルのシャトルバスが頼りでした。そのため、私たちの毎日は、陽気なシャトルの運転手との英会話で始まるという少し変わったものでした。

Henry Ford Hospitalは、ロボット支援前立腺全摘術(RARP)の先駆者であるProf. Menonが主任教授をされている病院です。泌尿器科は、Vattikuti Urology Instituteと呼ばれ、彼らが行うRARPをVIP (Vattikuti Institute Prostatectomy)と独自に呼ぶほど、その特徴はロボット手術にありました。私が滞在した3週間に40件近くのロボット手術が行われていました。しかし、驚くことはその数の多さではなく、腹腔鏡手術が1症例もなかったことでした。前立腺全摘、膀胱全摘、腎部分切除はもちろんのこと、根治的腎摘除術、腎尿管全摘術、腎盂形成、被膜下前立腺摘除、腎移植まで全てがda Vinciを用いて行われていました。ロボット手術を始めたばかりの私にとっては、毎日が勉強になる日々でしたが、特に印象的だったものが、前立腺全摘と腎移植でした。前立腺全摘は、Prof. Menonや彼の右腕となっているDr. Jeongを中心として、様々なアプローチで取り組まれていました。症例の特性に応じて、Anterior approach, Retius sparing approach, Prof. Menon独自の未公開手技 (precision prostatectomy) を使い分けていましたが、圧倒的な解剖学的知識からくる神経温存に対する熱い思いだけでなく、なにか新しいものを切り拓いていこうとする信念を感じることができたのは、私にとってとても良い刺激となりました。

Exchange program中に最もお世話になったのは、ロボット腎部分切除術で有名なDr. Rogersでした。ご夫婦揃って日本に留学されたことがあり、ご自宅には日本の地図が飾られるほど親日家で、私たちに親しく接してく

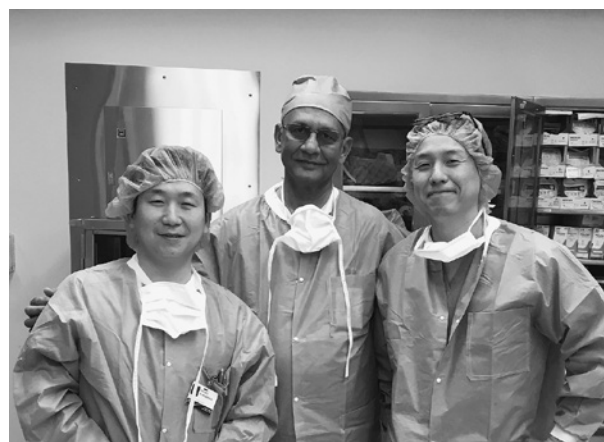


写真1 Prof. Menonと手術室にて
左：筆者 中央：Prof. Menon 右：根来先生



写真2 Dr. Rogersとご自宅の前で

ださりました。Dr. Rogersには、手術手技に関する細かなことを教えていただいただけではなく、週末にはご自宅に呼んでいただいたり、ピクニックに連れてくださったりと、感謝の言葉もありません。

最後になりましたが、このような貴重な経験を与えてくださりましたJUAおよびAUA両学会の関係者皆様に深謝いたします。また何よりも、私を本プログラムに推薦くださりました安井孝周教授、そして快く送り出してくださいました医局の先生方に心より感謝申し上げます。